

地方からの世直しを

名誉会員本間利雄氏講演会・祝賀会

「JIA（日本建築家協会）名誉会員本間利雄氏講演会・祝賀会」がJIA東北支部（松本純一郎支部長）・山形地域会（水戸部裕行会長）共催で13日、山形グラントホテルで開かれた。

本間氏は06年JIA奈良大会で池原義郎氏、岡田新一氏などとともに名誉会員となった。今回の記念講演会・祝賀会は2月に行われた「本間利雄氏の名誉会員称号を祝う会」に続くものである。本間氏のこれまでの幅広

い活動もあって、2000人を超す参加者にぎわった。

本間氏は1931年生まれ。羽田他所夫設計事務所を経て62年本間利雄設計事務所開設。75年には地域環境計画研究室（00年東北地域環境研究室）を併設するなど、

早くから環境問題に積極的に取り組んできた。一方、山形経済同友会代表幹事を務めるなど経済人としても活動してきた。

記念講演のテーマは「風土と建築」。吉村順



講演する本間氏

三氏、荻原義信氏、約10年いた羽田他所夫氏、伊藤ていじ氏、イアン・マクハーグ氏、

最近では内

藤廣氏との出会い、交流を通して、現在に至った経緯を話した。また、JIAは今年20周年を迎えるが、旧日本建築家協会（JAA）副会長として、

JIA設立の経緯も話した。いまや当時を知る数少ない建築家の一人である。

建築家は

市民とともに

「羽田先生のところから独立して4、5年たった70年に、松田軍平先生にお願いでJIAに入

った。これで建築家になれたとうれしかった。当時、プロフェッショナルとはどういうものか知らなかったが、その後JIAに引き継がれ建築家職能の確立運動となった。当時は、そのことにみんなが燃えていた。しかし、

それがなんで日本でできないのか。その後アメリカ建築家協会（AIA）やイギリス王立建築家協会（RIBA）から建築家は社会（デベロッパ）から挑戦を受けているという衝撃的なレポートが出た。それを通してわかったことは、JIAは役人ではなく市民とともに運動しなくてはいけないということである」

原風景、場所性もった建築を

原風景、場所性もった建築を

「コルビュジエの近代建築理論が全世界を覆ってしまい、そのことで建築の場所性がすてられてしまった。建築家のとしての原風景は同じではない。それなのにつくる建築がすべて同じなのはおかしい。その風土、大地から立ち上がってくる建築であるべきだ。そのことで建築は、それぞれの表情をもってくるのである。私の原風景は、生まれた小国の飯豊連峰のブナ原生林である」

「東北の民家は媚（こ）びることなく、大地から立ち上がったたくましさがある。それでいて風景にとけ込んでいる」



「山形、東北のまちづくりはわれわれが最初に動かなければ誰が動くか。それには場所性をも一度問い直すことである。いまこそJIAは立ち上がるべきで、地方から世直しができるのである」

松本東北支部長、水野一郎JIA副会長、小沢明東北芸術工科大学前学長、清水公夫JIA元東北支部長のあいさつと祝辞、柳沢璋忠JIA専務の乾杯が行われた。写真